

平成 19 年 11 月 2 日

各 位

会 社 名 蛇の目ミシン工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 加藤 澄一
 (コード番号 6445 東証第 1 部)
 問合せ先 常務取締役管理本部長
 関 建吾
 (TEL 03-3277-2111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 17 日の決算発表時に公表した平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の中間期及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 平成 20 年 3 月期中間連結業績予想の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)
 (単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	24,000	1,200	1,000	400
今 回 修 正 予 想 (B)	23,000	450	350	△300
増 減 額 (B-A)	△1,000	△750	△650	△700
増 減 率 (%)	△4.2	△62.5	△65.0	—
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期中間)	23,144	958	829	191

(2) 平成 20 年 3 月期通期連結業績予想の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)
 (単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	50,000	2,800	2,400	1,000
今 回 修 正 予 想 (B)	50,000	2,200	1,800	250
増 減 額 (B-A)	—	△600	△600	△750
増 減 率 (%)	—	△21.4	△25.0	△75.0
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期)	48,729	1,985	1,871	461

2. 個別業績予想数値の修正

(1) 平成20年3月期中間個別業績予想の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	18,500	600	800	300
今回修正予想(B)	18,000	400	800	200
増減額(B-A)	△500	△200	—	△100
増減率(%)	△2.7	△33.3	—	△33.3
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期中間)	19,009	628	1,313	776

(2) 平成20年3月期通期個別業績予想の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	38,000	1,300	1,700	800
今回修正予想(B)	36,500	950	1,700	700
増減額(B-A)	△1,500	△350	—	△100
増減率(%)	△3.9	△26.9	—	△12.5
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	37,366	1,104	2,057	973

3. 業績予想修正の理由

当中間期に関して、売上高は業績予想に対して微減収であったものの、利益は大幅な減益となることが見込まれるため、業績予想の修正を行うものです。その主な要因は以下のとおりです。

(1) 国内販売の想定外の落ち込み

昨年11月に一部のミシン訪問販売業者が行政処分を受けたこともあり、訪問販売を取り巻く環境が厳しくなっている状況下、当社は、ソーイング教室の展開等を通じて、消費者の皆様にもシンを使ってのモノづくりの楽しさを理解していただき需要の維持・拡大を図っておりますが、こうした施策が市場に浸透するには予想以上に時間を必要としております。

(2) 原材料価格の高止まりの影響

引き続き原材料価格が上昇傾向にありますが、当社は生産効率の継続的な向上を図ると同時に、本年4月に国際生産本部を設置し、全体最適のものと生産の平準化を推進しております。また、低価格機種の価格競争が厳しい中、原材料価格上昇分の価格転嫁が一部遅れたことにより、原価率が上昇しております。

(3) M&A効果の遅れ

ジャノメグループとしての成長を目指し、昨年8月に海外ミシン販売会社、本年2月に国内ミシン製造会社を買収いたしました。買収後の販売体制の再整備に思いの外手間取り、損益面での貢献が少なかったのに対して、のれん代の償却が発生しており、当中間期としては、損益悪化要因となっております。尚、この体制整備もほぼ終了し、下半期以降においては買収効果を期待できる状況となっております。

(4) 投資有価証券評価損の特別損失計上

米国におけるサブプライム問題の発生により、当中間期末において金融機関株を中心に株価が下落しておりますが、当社保有株式の期末時価評価において特別損失が発生しております。

(5) 海外子会社の配当実施による法人税額の増加

海外子会社からの受取配当金にかかる外国税額控除の影響により、税引前中間純利益以上の税額となったため、連結中間純利益は欠損となっております。

通期に関しては、当中間期での下方修正を勘案し上記のとおり修正いたしますが、効果の発生が遅れている各施策遂行による下期業績に対する貢献は期待できると考えております。

注) 上記の業績予想は、本資料の発表当日において入手可能な情報に基づき作成したものです。今後様々な要因によって、実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以上